

高齢者インフルエンザ接種を受ける方へ

～チラシを読み、予防接種の必要性や副反応について、しっかりと理解しましょう～

インフルエンザは、ウイルスに感染することにより起こる病気です。

症状は、突然の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛みや咳、鼻水などもありますが、普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを起こし、重症化することのある点が特徴です。

日頃から正しい手洗い、十分な栄養と休息を心がけること、また、室内を換気し湿度も適切に保つことが、感染予防につながります。

【予防接種を受けることができない人】

- (1) 明らかに熱(通常、体温が37.5℃以上)のある人
- (2) 重篤な急性疾患にかかっている人
- (3) 接種液の成分により、アナフィラキシー(※)を起こしたことのある人

※ 通常、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応です。発汗、顔の腫れ、全身のひどいじんましん、吐き気、嘔吐、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身症状です。

- (4) その他、医師が不適当な状態と判断した人

【接種前に、担当医師とよく相談しなければならない人】

- (1) 心臓、血管、腎臓、肝臓の病気、血液疾患等の基礎疾患がある人
- (2) 過去のインフルエンザ予防接種で、接種後2日以内に発熱、全身性発疹などアレルギーを思わせる症状がみられた人
- (3) 今までにけいれんを起こしたことのある人
- (4) 過去に免疫不全と診断されたことのある人及び先天性免疫不全症と診断された近親者がいる人
- (5) 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患がある人
- (6) 接種液の成分に対しアレルギーを生じる恐れのある人

【予防接種を受けた後の一般的注意事項】

- (1) ショックやじんましん、呼吸困難などのアナフィラキシーが、まれに接種後30分以内に起こることがありますので、体調に注意し医師と連絡が取れるようにしておきましょう。
- (2) 接種後、接種部位の異常反応や体調の変化があった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- (3) 予防接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。
- (4) 接種当日は、激しい運動を避けてください。

【インフルエンザワクチン接種後の副反応】

まれに、接種部位の腫れや痛み、発熱、頭痛や全身のだるさ等の現れることがありますが、通常は2～3日の内に消失します。

発生頻度	症状
10～20%	接種した場所(局所)の赤み(発赤)、はれ(腫脹)、痛み(疼痛)
5～10%	発熱、頭痛、寒気(悪寒)、だるさ(倦怠感)

